確かな成長を促すインターンシップの推進

自分を知る、社会を知る、自分と社会の接点を知る

インターンシップなんで 大変なだけで 意味ないんじゃない?

… もしかすると、このようにお考えの先生方もいらっしゃるかもしれません。 しかし、ここでお示しするように、高校でのインターンシップは、 小学校での職場見学、中学校での職場体験活動等の成果を踏まえて展開することで、

● 自らの進路選択について主体的に取り組むことができる。

次のような成果が期待できる、大変意義のある活動です。

- 体験を通して日々の学習の意義を再確認し、学習意欲の向上を図ることができる。
- 多くの職業人と触れ合うことで異世代とのコミュニケーションを図ることができる。
- 仕事をする上で必要となる知識、技術、技能等について考えることができる。
- マナーや言葉遣いなどの大切さについて、認識を深めることができる。







インターンシップを効果的に展開するためのポイント

Point 1 教育課程への適切な位置付けを図る

インターンシップの目的やねらい、実施時期や期間を明確にする とともに、教育課程への適切な位置付けを図り、学校全体で取り 組む教育活動として実施することが大切です。教育課程に位置付 ける方法は下記のとおりです。



- ① 総合的な学習の時間で実施
- ② 特別活動で実施
- ③「産業社会と人間」等の教科・科目で実施
- ④ 学校外における学修等の単位認定による実施

事前指導・事後指導を含め、これらを組み合わせることも 可能です。

Point 2 成功するインターンシップはここが違う

- ① その場限りのイベントにしない計画性と連続性。充実した事前学習で変える、体験における学びの質。
- ② 体験先での業務内容に必要な職業能力と学校での学習活動等を関連付ける。
- ③ 勤労観や職業観の変化、自己の内面の変化等に留意した事後指導の充実。
- → インターンシップによる一人一人の 変化をその後の学校生活や学習、将来 設計などに生かそうとする発想を持っ て計画をすることが大事です!(イン ターンシップの落とし穴→卵からかえっ たヒヨコのように、自分が見たものや 体験したことに影響を受けすぎ、過度 に視野が狭められるという場合もあ ります。十分な事後指達が必要です。)

